

地方の若年者雇用対策

～ジョブカフェ・モデル地域の取り組み～

ジョブカフェの快進撃

若者のためのワンストップ就職支援サービスセンター「ジョブカフェ」が、全国各地で快進撃を続けている。

ジョブカフェとは、地域の実情に合った若者の能力向上および就職促進を目的とした施設のこと、若年者はそこで雇用関連のサービス(カウンセリング、研修、マッチング等)を受けることができる。これは各都道府県に整備されるものであるが、「若年者就業問題が地域の産業活力に影響を与えていること」、「雇用対策と産業振興策、更には教育が十分に連携していること」、「特色ある事業であること」などの選定ポイントをもとに、小誌2004年10月号で紹介した群馬県をはじめ、全国15カ所が経済産業省のモデル地域に指定されている。

同省によると、2004年7月からモデル地域で始まったジョブカフェ事業により就職した若者が、約4カ月間で6,000人以上にのぼっている。具体的に見ると、2004年10月末までのジョブカフェ利用者数は約18万人、カウンセリングを受けたのは約3万8,000人、就職者数は6,240名であった。

石川県の若年者雇用

今回は、そのモデル地域のひとつである石川県の「ジョブカフェ石川」にスポットを当てる。日本有数の城下町である県都・金沢市

を擁する石川県は、建設機械・繊維機械といった機械工業に加え、世界的産地を形成している繊維工業など、いわば「ものづくり」の盛んな県である。

若年者雇用に関して、石川県は早くから「石川県若者しごと情報館」を整備するなど、全国に先駆けて若者に対する一貫した就業支援サービスを展開し、その積極的な取り組みが各方面から高く評価されている。

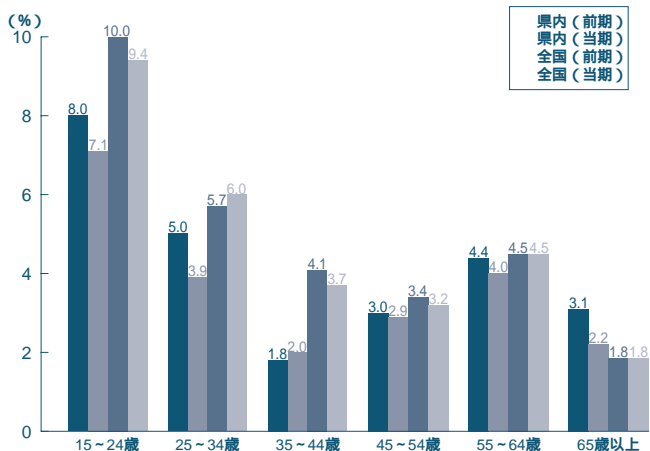
現在、石川県の失業率は全国平均を大きく下回っているが(資料1参照)地域の産業の中心となっている中小企業で後継者不足が深刻化するなど、雇用のマッチングが課題となっている。

ジョブカフェ石川への期待

県の基幹産業である鉄鋼・機械や繊維産業で雇用のマッチングを図り、「ものづくり」の基盤を固めるとともに、地域の人材流出を防ぐことを目指して、石川県は2004年7月に「ジョブカフェ石川」を開設した。事業好調につき、同年10月には同県小松市、七尾市へサテライトを開設し、より地域に密着した事業展開が可能となった。

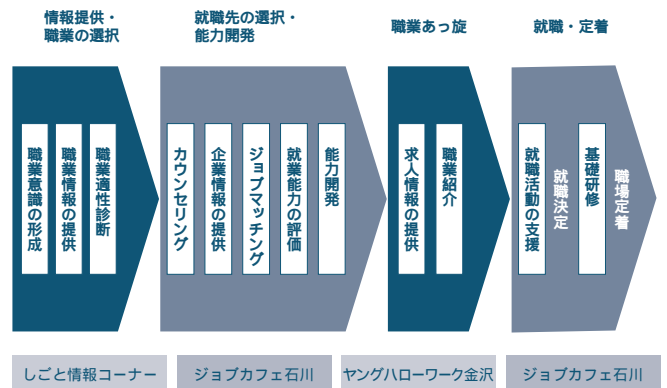
今回は、「ヤングハローワーク金沢」と併設し(資料2参照)全国モデルにふさわしい独自の事業を展開しているジョブカフェ石川のセンター長である植村まゆみ氏に、ジョブカフェ石川の現状と今後の課題、事業展開のあり方などについてうかがった。

資料1 石川県における年齢別完全失業率の状況 -平成16年第3四半期-



出所：石川県ホームページ「石川県労働力調査速報」
(http://toukei.pref.ishikawa.jp/roudou/roudou_16.3.htm)

資料2 ジョブカフェ石川のサービス



ジョブカフェ石川作成資料

石川県における若年者雇用の マッチングを目指して



石川県若者しごと情報館 ジョブカフェ石川センター長 植村まゆみ 氏

1962年石川県金沢市生まれ。津田塾大学(社会心理学専攻)卒業。外資系化粧品会社を経て、1991年ニベア花王株式会社マーケティング部勤務。ブランドマネージャーとして調査から商品開発、広告・販売促進の戦略立案から推進まで総合的なマーケティングマネジメントを担当。2001年、ふるさとの活性化に貢献したいという思いから、金沢市の中心地にある堅町商店街振興組合の事務局長に公募にて就任したことをきっかけにUターン。2004年6月より現職。

若年者雇用をめぐる 石川県の取り組み

まず、石川県における若年者雇用の現状からおうかがいします。

植村 現在、石川県の失業率は約4%ほどで、全国平均の4.8%を下回っています。ただ、若年者に限っては約8%で、こちらも全国平均を下回っているものの、まだまだ高いというのが現状です(38頁・資料1参照)。ジョブカフェ石川は、ジョブカフェモデル15地域のひとつとして指定していただきましたが、われわれが予算をいただいた背景には、特に若年者層を中心とした雇用のミスマッチがあります。

現在、石川県の基幹産業である鉄鋼や繊維といった産業では、後継者となる人材が育っていません。県の産業施策の方針でも、このような分野での人材育成の強化が必要だ、という問題意識を持っていました。

ここ石川県をはじめとした地方では特に、産業の中心は中小企業です。優秀な企業が多数あるのに、若年層には認知度が低く、その長所が知られていない。これは、企業側に人材獲得のノウハウがないことに起因しているのではないかと考えました。そこで、ジョブカフェの仕組みを使って企業と

のマッチングを強化し、石川県の産業を活性化していこうということでスタートしたのです。

石川県若者しごと情報館は、「ジョブカフェ石川」の他に、同じフロアに「しごと情報コーナー」「ヤングハローワーク金沢」が並んでいますね。

植村 本県では、若年者の就業支援のため、全国に先駆けて一貫した就業支援サービスを展開してきました。

まず、若者しごと情報館は、就労意識・職業意識の形成を目的に、2003年5月に設立されたものです。職場の疑似体験ができたり、職業興味チェックができたり、簡単かつ手軽に職業を疑似体験できるような仕組みを設けました。おかげさまで、県内各地の中学校・高校から見学があり、学校単位で大勢の学生に来ていただいています。ボックスのシートに座って、ゲーム感覚で職業を知っていただくコーナーは特に人気です。例えば、看護師さんの仕事が画面で紹介され、「こんなとき、あなたならどうする?」と三択問題にチャレンジしていただき、利用者の方で考えてもらうわけです。実際に参加することで、中高生の皆さんが仕事を考えるきっかけになっているものと思います。今、学校では総合学習の時間が設けられているの

で、そのような時間を利用して来ていただいているようです。就業に対する意識を高めなければいけない、と感じていらっしゃる先生方も増えているように感じます。

その後、同年11月に石川労働局のご協力により、ヤングハローワーク金沢が併設され職業紹介事業をスタート、そしてこのほどジョブカフェ石川が設立されたという流れです。

ジョブカフェ石川の誕生

ジョブカフェ石川の機能についておうかがいします。

植村 一言で言えば、若者しごと情報館が提供する就業支援サービスの中で、情報提供部門とヤングハローワーク金沢をつなぐ役割を担っています(38頁・資料2参照)。きめ細かな就業支援と企業が求める人材育成を中心としたサービスを提供しており、具体的にはマンツーマンの就業支援、企業情報の提供、職業能力評価、企業ニーズを踏まえた研修、広報・啓発活動、を事業活動の柱としています。

これまでの利用状況はいかがですか。

植村 おかげさまで、ジョブカフェコーナー

新世紀 キャリア形成

の来場者は、11月末現在で、約8,000名に達しています。メンバー登録者も1,700名を超え、当初の予想を上回る多くの方々にご利用いただいています。

メンバー登録とはどのようなものでしょうか。

植村 ジョブカフェ石川のホームページ上で、ご自身のIDとパスワードを入力していただくと、自分だけの「就職カルテ」を見たり、自分の希望する条件に適合する企業の情報を閲覧することができたりするサービスです。また、利用者の方にはメンバーズカードを発行し、カウンセリングの予約やセミナー受講に役立てていただいています。また、就職された方には、ささやかなお祝いを差し上げています。

辛く大変な就職活動をされている皆さんに、少しでも楽しくこちらにお出いただくことはできないか。ポイントカードの導入は、センターのスタッフみんなでアイデアを出し合って決めました。

こちらを利用されるのは、主にどのような方ですか。

植村 訪れる方の約70%が20代、20%が30代です。8割の人は予約をして来られるリピーターの方で、2割ほどが新規の方です。

初めてこちらにいらっしゃった方は、とても所在げな様子でいることが多いので、すぐにスタッフが声を掛け、利用方法等をご案内して、リラックスしていただけるように努めています。

開設に当たっての広報活動は、どのようにされたのですか。

植村 こちらを利用される方の7~8割が、今まさに職を探している方たちです。そのため、同じフロアにあるヤングハローワーク金沢を利用された方がジョブカフェ石川を目にされて、そのままこちらにいらっしゃるケースが多い。同じフロアということで、うまく連携がとれていると思います。

また、開設前には県内の高校や専門学校、大学等へご挨拶にうかがいました。今後は「出前ジョブカフェ」というかたちで積極的に学校へ出かけて行きたいと思っています。

思いのほか効果的だったのは、地元紙への広告掲載・折り込み広告です。ジョブ

カフェ石川の開設は7月24日で、大学生は既に夏休みに入っている場合が多いことから、どうしたら学生の方に伝わると考え、案外、親から渡してもらうルートが多いのではないかとこの考えに至りました。

チラシにはジョブカフェ石川を紹介する簡単な内容、こんなサポートをしています等、とにかく書きたいことだけを書きました。開設以来、就職支援セミナーを開催しているのですが、このチラシをご持参いただく方が大勢いらっしゃいました。チラシを

入れた翌日から、「チラシを見た」という親御さんからのお問い合わせが多々ありましたが、「親からチラシを送られた」という地方の学生さんからの問い合わせもありました。親子で直接、仕事のことを真剣に語り合う機会は少なくとも、チラシを介して仕事を考えてもらうことはできるのではないかと、という思惑は当たったものと考えています。

ケアのポイント

就職がすぐに決まる人、なかなか決まらない人の差はどこにあると思われますか。

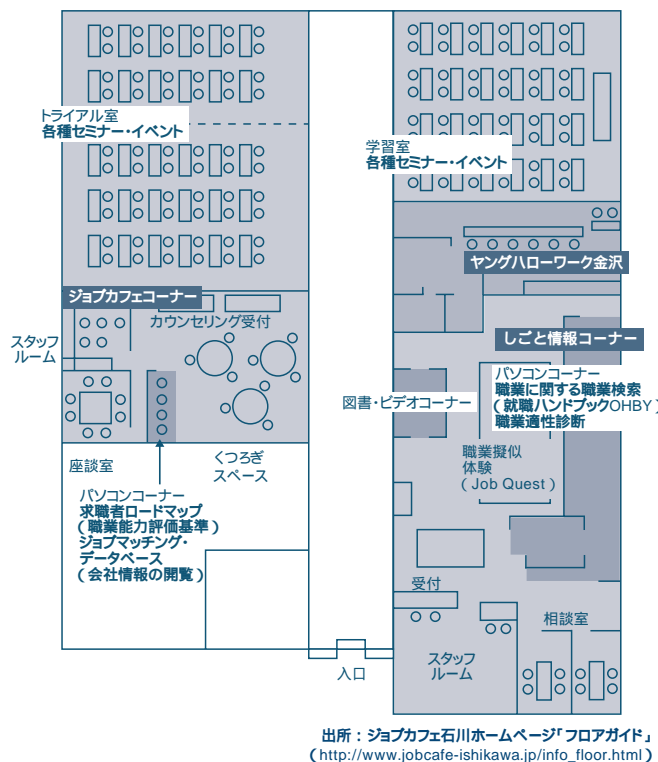
植村 決まる方は、自分で情報を探してきて「これに行きたい」とおっしゃることが多いですね。どのような履歴書を送ったらよいか、どう書いたらいいのかが、志望動機をどんな風に答えたらよいか、といったように具体的な情報を求めてくる。とても自発的なのです。一方で、決まらない方は、いつまでもセミナーを受けている。だから、その段階で止まってしまっていて、なかなか次へ進まない。非常に慎重なのです。

そのような方には、結果がどうあれ、まず1回面接を受けるよう勧めます。ある女性の方は、それまで面接を躊躇していらっしゃったのですが、1回試しに受けてみたのをきっかけに自信を持ち、その後就職に結び付いたことがありました。また、就職に迷っていたある男性の方に、カウンセラーの先生が「よし、これでいこう」と声を掛けて決断を促したとき、その男性の顔が一変し、パッと明るくなったこともあります。このように、時には背中を押して、動機付けをしてあげる必要もあります。

就職が決まらず、かなり悩まれる方も多いそうですね。

植村 毎月、ジョブカフェモデル地域連絡会議が開催されているのですが、そこでは必ず利用者の方の心の問題、すなわち、就職活動に疲れ、精神的にまいってしまっている人をどうケアしていったらいいのかが、という話題が出ます。時には背中を押し、時には心の支えになる。カウンセラーの方々にはさまざまな役割が求められますが、皆さん本当に熱心で、利用者の方からの信頼も厚く、感謝しています。

資料 石川県若者しごと情報館の平面図



個別にケアしてあげて、自分が何をやりたいのか、何ができるのか、何をやってきたのかを、客観的に自分できちんと整理できるようにする。やり方さえ教えてあげれば、あとは自分の力で巣立っていけるのです。失いかけた自分をどう取り戻し、いかにして自信を向上させてあげられるか。それがカウンセリングにおけるケアのポイントなのだと思います。

YES プログラムの可能性

今、ジョブカフェへ来られる方の能力やスキルの傾向には、どのようなものがありますか。

植村 女性の場合、一般事務職を望まれる方が多くいらっしゃるのですが、具体的に持っているスキル、例えばパソコン、簿記だとか経理の知識について尋ねると、確かなものをお持ちでない場合が多い。実務に必要な具体的な能力を身に付けている方が、就職に有利に働くことは事実ですね。

就業に必要な能力には、どのようなものがありますか。

植村 まず何と言っても、自分の考えや意見をきちんと言葉・言語で相手に伝えたり、相手の気持ちや考えを正確に捉えたりするコミュニケーション能力が挙げられます。面接での自己PRに役立てば採用される可能性も高まるでしょうし、実務で活躍の場も広がると思います。加えて、実務で必須となるパソコンや計数能力も、就職に必要な基礎能力であると考えられます。

今、厚生労働省が、求職者の就業基礎能力を高めるべく「YES-プログラム」というモデル事業を進めています。これを活用していく計画はありますか。

植村 こちらでは、2004年12月より本格的に導入し、YES-プログラムのガイダンスや、YES-就職基礎能力検定を実施しています。先に述べたコミュニケーション能力をはじめ、実社会で企業が求めている能力が揃っていますし、利用者の方の自信向上につながるのであれば、どんどん活用すべき制度だと思います。

以前、企業は真っ白な状態の人を受け入れて、独自の研修を通して色を染めていく

という仕組みがありました。時が移り、企業はその負担に耐えられなくなってきた。そこで、このシステムを使って「私はこれができます」という能力を証明し、求職者のメンタリティをバックアップする効果が期待できるのではないかと考えています。

企業にとって、YES-プログラムのメリットは。

植村 YES-プログラムは、国の権威付けがきちんとなされたものですから、産業界から見ても、個人の能力の正当な証明になり得ると思います。今後は、YES-プログラムが広く社会に受け入れられるよう、さらなる広報活動が望まれます。

企業とのマッチング

実際に雇用の現場に携わられているお立場から、国の施策に対するお考えやご意見をお聞かせください。

植村 今、低年齢から職業観を育てるためのプログラムが進められており、将来に向けての対策は講じられつつある、という印象はあります。その一方で、ニートと呼ばれる若者たちが増えています。その人たちへのフォローをどうしたらよいのか。ニートはどこにどのように存在しているのか把握できず、行政からのアプローチが難しい。ジョブカフェの取り組みにも限界がありますから、ニートの対策では学校や労働機関が連携し、ある程度の道筋を付ける必要があると思います。

また、若年者雇用の施策は各省庁で実施されていますが、さらに長期的な視野に立った体系的かつ省庁横断的な施策が展開されればと思っておます。

今後、こういった方向に事業を展開していこうとお考えですか。

植村 大学や高校、あるいは専門学校といった教育機関は、進路指導やキャリア教育の機能が不十分ではないかと思っています。学業から就業につながるような仕組みづくりをジョブカ

フェに求められるのならば、さらに組織を拡大していく必要があると思います。

また、今ぜひ取り組めないものかと思っているのは、なかなか動き出せずにセミナーに出ている方をジョブカフェで雇用し、アルバイトしてもらおうという試みです。少しでも世の中や仕事を体験してもらい、自信につなげてもらえればと思います。

もう一つ取り組んでいかなければならぬのが企業とのマッチングです。企業の方がジョブカフェ石川に足を運んでいただけるような流れをつくっていききたい。例えば、中小企業にはすごくいい仕事をしているところもあるのに、人材育成や人材獲得のノウハウがない。そこにちょっとアドバイスして、企業がそれを受け入れてくれれば、うまく人が流れる仕組みができると思います。マッチングを期待して、もっと企業のニーズを吸い上げ、県内産業の人材育成あるいは人材獲得に貢献したい。そこにジョブカフェ石川で育った人たちが入社・就職できるような流れを築くべく、真剣に取り組んでいきたいと思っています。

最後に、就職を目指す若者たちにアドバイスをお願いします。

植村 これからの社会では、自分で能力開発をして、自分自身を高く売れるように切磋琢磨しなければなりません。自分の価値は自分でつくるものであり、売れる人材になるか否かは自分次第だと思うのです。

自分の居場所は、自分でつくるしかありません。私たちは、そこに至る環境づくりを全力でお手伝いします。就職で悩んでいることがありましたら、ぜひ一度、こちらにお越しください。



石川県若者しごと情報館 ジョブカフェコーナー